

わかくさ



▲雪の日の朝に（加工写真）

新年のごあいさつ



施設長 福留久美

寒さ厳しい日々が続きます。日頃は皆様のご厚情を心より感謝申し上げます。また年末には多くの方からのクリスマスプレゼントやご寄付を頂きましたこと、ありがとうございました。2015年ひつじ年がスタートし、子ども達にとってこの1年が羊のようにほんわかと、ゆったりとした心で過ごせるようにと願っています。

冬休みを終えた子ども達は最終学期となりました。受験生や卒園して自立する子ども達にとっては何かと慌ただしくなる季節ですが、皆が目指した進路へと進むことが出来るように、私たちは精一杯支援していきたくと思います。本年度は高校受験生8名、高校を卒業して自立する子どもが3名の予定となっております。この子ども達が笑顔で春を迎えられるようにと、職員は強く願っているところです。他の子ども達も学年の集大成の学期です。心おきなく次学年に進級できるよう支えてあげたいです。

また、児童家庭支援センターは今後も、地域で子ども達が安全で安心した生活が送れるように活動を広げていきたくと思います。

本年度は退所児童等アフターケア事業を立ち上げ、手探りで退所した子ども達の支援を行って参りました。退所した子ども達がそれぞれの地域で精一杯生きて行けるよう引き続き支援して参ります。

本年度も若草園、児童家庭支援センターわかくさ、退所児童等アフターケア事業あおばをご支援頂くと共に、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆ではありますが、新しい年の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

育児相談窓口
児童家庭支援センター
わかくさ
 Tel(0880)
33-0258
 24時間
 365日無料

土佐中村一條太鼓

若草園の子ども達はかつて児童福祉施設行事運営委員会主催の芸能祭に参加するため、一條太鼓に入門して練習を重ね、演奏会に参加しました。その後、若草園が家庭的養育を進化させる意味もあって芸能祭には出場しなくなりました。しかし、太鼓を引き続き習いたい子どもには自主性を尊重して、地元の一線太鼓への参加を続けてきました。現在4人の子どもが毎週太鼓の練習に通っています。

1月17日、第9回土佐和太鼓文化研究所「一響館」主催で和太鼓コンクールが開催され、若草園の子ども達も一條太鼓のメンバーとして演奏に加わりました。日頃の成果が認められて、中学生の部で団体優勝を果たし、また個人賞も頂くことが出来ました。

若草園の子ども達や、また職員もメンバーの皆様にはご迷惑をお掛けする事もありましたが、この様な形で地域社会との交流が続けられていることを嬉しく思い感謝しております。これからもよろしく願います。



1.17 和太鼓コンクール
高知県下持ち回りで開催されており、今年は四万十市立文化センターで開催されました。

元気いっぱい

小学5年 K・K

児童が学校で書いた
作文を紹介します。

作文コーナー

ぼくは10月31日に下田保育所に手作りおもちゃを持って訪問をしました。初めにホールに集まって紙しばいを読みました。ぼくの班は「かさぶたブーツ」の紙しばいを読みました。そのあと、りす、あひる組といっしょにボール遊びをしました。そのあとに保育園の先生に質問をしました。一番大変な事は一人一人に色々な面で力をつけてあげることと言っていました。ぼくは訪問に行つて園児を育てることはすごく大変なんだなと思いました。ぼくはけんかを止めるのが難しかったです。10秒をみんながかぞえられていたのでびっくりしました。また機会があったらまた遊びたいです。



下田小学校の保育所訪問を体験しての感想文です。

若草園のクリスマス

若草園はもともとはキリスト教系の施設であったため昔からクリスマスは盛大にお祝いしてきました。今でもキャロリング（讃美歌を歌って地域を回る）と、クリスマス礼拝・祝会が続けられています。



12.25 クリスマス礼拝
クリスマスの本当の意味、救い主イエス・キリストの誕生についてのお話を聞きました。



12.25 クリスマス祝会
さまざまな余興が子どもや職員から出されて、みんなで楽しめました。

パーティーの時、若草園の出身で路上詩人「はまじ」から子ども達全員にクリスマスプレゼントが届いて、代表の子どもに渡されました。



12.11 おくいぞめ
生後100日頃乳歯が生え始めることから行われる伝統的な儀式をしました。調べてみると平安時代から続いているそうです。



12.13 募金活動
若草園で結成しているボーイスカウトの活動の一環として年末の共同募金をしました。



子ども達の活動



新年食事会
NHK歳末助け合いの助成事業で、外食する機会が少ない若草園の子ども達がホーム毎にお気に入りのレストランで食事をしました。



ワンちゃん
ご近所の方が用事で来られたとき犬も一緒だったので遊びました。



ダイオウグソクムシだ！
今話題となっている世界最大のダンゴムシが土佐清水市三崎にある足摺海洋館にやってきたので見に行きました。



12.18 子どもは風の子
この冬、若草園にも雪がふりました。子ども達は元気に喜んで雪遊びをしました。



退所児童等アフターケア事業 あおば

児童養護施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム、里親家庭を退所し、自立生活をしている方で困っている事はありますか？ お気軽に相談してください。

Tel(090)5912-1785
専門相談員 岡崎光子
(9:00~17:00、緊急の場合は24時間対応します)
<< 無料 >>



「あおば」では、高知市の「おひさま」と共催し「知って得する社会のしくみ」セミナーを開きました。第1回は児童家庭支援センターみそのにてテーマ「携帯電話の危険性について」（参加者4名）。携帯電話、スマートフォンとの普及とともに拡大しているSNSは手軽に人と繋がる反面、トラブルが後を絶ちません。そこで千斗枝グローバル教育研究所から講師を招き、若年層がネット社会で身を守る方法を学びました。第2回は高知市青年センターにてテーマ「社会にでて巻き込まれやすいトラブルについて」（参加者12名）。施設から巣立って行く子どもたちが身に付けておくべき基本的な防犯知識や近年多いトラブルについて、高知県警生活安全課より講師3名を招いて学びました。いずれもセミナーの前後に昼食会やバスケットボールを通して、参加者同士で交流を深めました。

この他には7月に職員に向けて性教育についてのセミナーを、12月に卒園生と近況や悩みを語り合う茶話会を開催しました。

退所児童等アフターケア事業活動

さようなら 清流号
ありがとう

カラオケ友の会・清流さんから寄付された中古車は「清流号」と名付けて園の公用車としてみんなに親しまれてきました。2年半の間、おもに幼稚園の送迎用として活躍しましたが、大がかりな修理が必要となったため退役しました。子ども達とおわかれをしました。ありがとうございました。



音次郎(中央)、その左が富沢六郎牧師



「保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会」

準備会情報

通称「音次郎会」

中村から下田港へいく途中の竹島の入り口の道路の横に、竹島小学校の児童が作った「佐竹音次郎生誕の地」と記された看板が立っています。佐竹音次郎は1864年ここに生まれました。7歳の時に中村へ養子に出されましたが、養母が離婚したため6年ほどで竹島に戻ってきました。この児童期の体験は音次郎の心身に疲労を与えました。しかし、この経験をバネにして音次郎は立ち上がりました。自分と同じ悲しい思いをする子どもがいないようにと、神奈川県で日本で初めての保育園を作りました。当時孤児院と呼ばれていた施設をそう名付けたのでした。音次郎は自分の子どもと他人の子どもを区別しない「聖愛主義」を貫きました。

5月10日午後、中央公民館にて音次郎会が発足し、記念講演会が開催されます。この音次郎に学んで行きたいと思えます。

児家サポポイ

児童家庭支援センターの事を省略して「児家セン」と呼んでいます。

児童家庭支援センターでは11月のオレンジリボンキャンペーン（子ども虐待防止・予防啓発活動）の一環として10月25日に四万十市公民館にて「こころぎふ臨床心理センター」の長谷川博一先生を講師にお招きして虐待の現状についてお話し頂きました。これからもオレンジリボンのシンボルマークを通して子ども虐待のない社会を広げていきたいと思えます。

児童家庭支援センター「わかくさ」は地域の子育て家庭からの相談を受け付けています。育児の悩みを抱えて居られる方にゆくりと時間を取ってお話しを聞いて下さるカウンセラーの先生と面談の予約も可能です。お気軽に児家センの育児相談窓口をご利用ください。



編集後記



ホワイト・クリスマスは冬の風物詩として、とても絵になる。南国土佐の海沿いの町・下田でも毎年1〜2回は雪がうっすらと降り積もることがある。今年はクリスマスの少し前に雪が降り、小学生の子ども達は狂喜して雪と戯れる事ができた。▼すでに完全に商業路線に乗せられているクリスマスも元々は重要な意味が込められている。今年には平成二十七年であるが、西暦で言えば二〇一五年。西暦はこのクリスマスを起源として数えられている年号なのである。つまり西暦元年に救い主イエス・キリストがお生まれになったのである。▼先日、私たちが福祉の姿勢を学ぼうとしている佐竹音次郎と同年代を生きた、同じく中村出身の偉人・幸徳秋水の墓前祭と講演会に参加させて頂いた。軍国主義の明治時代に真の平和を訴えて、大逆事件というえん罪の中、正義を貫いて処刑された人物だ。人類の罪を背負って十字架につけられたキリストを思い起こさせるのか、多くの海外の研究者も秋水に注目していると伺った。▼今年は一ひつじ年。羊の白くふわふわした様子は雪に似ている。イエスにはじめて出会った弟子は、歩いておられるイエスを見つめて、「見よ、神の小羊だ」と言ったエピソードも思い出す。▼子どもを取り巻く環境はいろいろあるが、それぞれの子ども達の純真無垢な良さを大切に伸ばしていけるように、おおらかに、あたたかく、おおってあげたいものだ。(せと)